



第720号  
平成27年8月24日

陸上自衛隊  
北部方面隊広報紙  
発行：北部方面総監部広報室

総監要望事項  
即 応  
錬 磨  
信 頼

北部方面隊  
ホームページ  
<http://www.mod.go.jp/gsd/nae/index.html>

# 方面直轄部隊の練度を評価



隊容検査及び出陣式における北部方面通信群長訓示

## 北部方面通信群 北部方面会計隊 訓練検閲

方面隊は、7月18日から23日までの間、方面総監部幕僚副長（防衛）を統裁官として北部方面通信群の訓練検閲、方面総監部幕僚副長（行政）を統裁官として北部方面会計隊の訓練検閲を行った。

北部方面通信群の訓練検閲は、本格的侵略事態における方面通信群の行動等について、練成成果を評価するとともに、その進歩向上を促すために行ったものである。

通信群は、18日の状況開始以降、行動命令に基づき道内各地の駐屯地、演習場及び民有地に展開し、方面隊の作戦に寄与するための通信網を速やかに構成した。

この間、19日の装備品の損耗の対処や21日の敵のサイバー攻撃に対し、速やかに対処する等、通信科部隊の専門的見地からあらゆる手段を講じ、通信組織を維持維持・運営し続けた。

終盤は、敵の航空攻撃により、大量の負傷者等を出しながらも、被害を局限し通信を維持し、群長の指揮統率の下、任務を完了した。

北部方面会計隊の訓練検閲は、本格的侵略事態における方面会計隊の行動等について、札幌駐屯地の会計隊本部を主体として、道内の各駐屯地に所在する各隷下会計隊の練成成果を評価するとともに、その進歩向上を促すために行ったものである。

会計隊は、18日の状況開始以降平素の駐屯地



作戦会議における北部方面会計隊長の指導

の態勢の他、道北FSA（近文台演習場）には旭川に所在する会計隊を、道東FSA（然別演習場）には帯広に所在する会計隊を主体とした会計直接支援隊を編組し、方面隊の作戦に適切に対処できる態勢を整えた。

この間、20日の道外からの青函地区への増援部隊に対処するため、他の駐屯地から要員の派遣の処置や21日敵のサイバー攻撃により一時的にシステムがダウンした際の対処行動等、隊長の指揮統率の下、あらゆる困難を克服し、与えられた任務を完了した。

# 矢臼別演習場において、練度向上を図る 第2師団平成27年度第1次夏季訓練検閲



96式多目的誘導弾の実射



99式自走榴弾砲による実射



第25普通科連隊による歩歩行進



10式戦車による攻撃前進

第2師団は、7月11日から24日までの間、矢臼別演習場において第2師団長を統裁官として平成27年度第1次夏季訓練検閲を行った。

本訓練検閲は、隷下部隊の第25普通科連隊（遠軽）、第2戦車連隊（上富良野）、第2特科連隊（旭川）、第2後方支援連隊（旭川）、第2飛行連隊（旭川）、第2対舟艇隊（旭川）、第2対舟艇隊（旭川）の各部隊が参加した。

第2戦車連隊は、13日から15日までの間、師団の陣地攻撃における掩護部隊としての行動を検閲課題とし、車両行進の対砲迫撃射撃を行い、22

日、早朝からの攻撃準備射撃、突撃支援射撃などにより、師団の攻撃前進に寄与し、師団特科隊として、与えられた任務を完了した。

第2後方支援連隊は、13日から15日までの間、師団の陣地攻撃における兵站・衛生部隊としての行動を検閲課題とし、戦間、自らが敵の攻撃等に耐えつつ健在し、故障装備品の整備・回収、入浴支援、第一線部隊に対する補給品等の輸送、重車輸送、糧食・燃料の交付、大量の緊急患者の輸送等の任務を完了し、師団の作戦展開に大きく寄与した。

科部隊としての行動を検閲課題とし、車両行進の後、矢臼別演習場に展開し、航空偵察、射撃の観測、地雷散布や航空機回収の任務を完了し、師団の作戦展開に大きく寄与した。

第2対舟艇対戦車中隊は、19日から24日までの間、師団の陣地攻撃における対機甲専任部隊としての火力戦闘を検閲課題とし、車両行進に引き続き、師団主力の攻撃の間、師団の対機甲部隊として、戦闘を繰り広げた。この間、師団第一線普通科連隊の

攻撃と合間合間に、96式多目的誘導弾の性能を活かした縦深の射撃を敵の戦車に対して行い、10両以上撃破するなど、敵の戦力分断を図り、第一線普通科連隊の攻撃に寄与した。



第2後方支援連隊と第2飛行隊協同によるUH-1Jの回収

## 総監部着任将官紹介

総監部幕僚長



まさき ゆきお  
陸将補 正木 幸夫

昭和34年12月5日生  
東京大学出身  
埼玉県出身  
平成19年3月 第14普通科連隊長  
平成21年7月 陸上幕僚監部運用支援情報部情報課長  
平成23年8月 小平学校 副校長  
平成24年7月 北部方面総監部 幕僚副長  
平成25年8月 情報本部 情報官

総監部幕僚副長



うしじま きよし  
陸将補 牛嶋 築

昭和41年11月25日生  
防衛大学出身  
福岡県出身  
平成23年12月 第6後方支援連隊長  
平成24年12月 陸上幕僚監部教育訓練部教育訓練計画課長  
平成26年8月 防衛監察本部監察官

直轄部隊の現況を把握、企図の徹底を図る

# 北部方面総監 函館駐屯地 初度視察 倶知安駐屯地

北部方面総監岡部陸将は、7月24日に函館駐屯地、8月4日に倶知安駐屯地に対する初度視察を行った。



儀仗隊より栄誉礼を受ける総監 (倶知安駐屯地)



隊員に対し訓示を述べる総監 (函館駐屯地)

28普通科連隊長兼駐屯地司令を務めていた地であり、約10年ぶりの訪問となった。当時、勤務をともにした隊員に顔を合わせると親しく言葉を交わし、当時を懐かしんでいた。

今回の函館駐屯地の視察に先立ち、函館市内のホテルにおいて任期満了等で退職を予定している隊員の再就職活動の一環である合同企業説明会の状況を確認し、担当者に対し、「よくやっている。しっかり頼むぞ」と声を掛け隊員を激励した。その後、函館駐屯地に移動し、駐屯地各部隊長の出迎を受け、駐屯地内の各施設を巡視した。特に、同駐屯地が毎年支援を行っている函館港まつりの山車の作成現場の視察においては、連隊長当時のエピソードを交えながら隊員を激励した。また、



生活隊舎の視察 (倶知安駐屯地)



幹部挨拶 (函館駐屯地)

営内居室の視察では、職住一体化施策と営内者の勤務状況を確認し、整列する隊員に対し「営内生活は快適か。不安はないか」などの質問に対し、隊員は「快適です。不安はありません」などと元気返りに答えていた。

## 2ヶ月の試練に耐え レンジャーバッジを胸に!

### 第2師団・第11旅団レンジャー集合教育修了

第2師団及び第11旅団では、名寄駐屯地、函館駐屯地において5月上旬から開始されていたレンジャー集合教育が修了した。

部隊レンジャー教育は、約2カ月間の集合教育の中で、前段で基本訓練として体力・気力を養う体力訓練や各種地形を克服して任務を遂行するための水路潜入訓練、ヘリコプターから降下するリベリング及び地雷判読や爆破訓練などを



行われた、レンジャー教育の集大成である第9想生に対し「よくがんばった。しかし、これがゴールではない、これからはレンジャー隊員としてさらに自分を磨いて行って欲しい」と激励した。

定(最終想定)では、気温30℃を超える猛暑や豪雨に見舞われるなど過酷な気象条件の中、3夜4日にわたる連続状況下、不眠不休で、互いに励まし助け合いながら数々の苦難を乗り越え任務を完了した。

第2師団の担任官である第3普通科連隊長は学生に対し「よくがんばった。しかし、これがゴールではない、これからはレンジャー隊員としてさらに自分を磨いて行って欲しい」と激励した。第11旅団では、第28普通科連隊長(函館駐屯地)が5月7日から7月23日までの間、教育担任部隊として教育を担当した。教育期間中、参加学生は22名の



担任官(連隊長)よりレンジャーバッジを授与される学生(第3普通科連隊)

## 猛暑を克服し、レンジャー隊員を目指す! 第7師団・第5旅団レンジャー教育開始



胆力テストを実施する隊員(第11普通科連隊)

第7師団及び第5旅団は、第11普通科連隊長(東千歳)及び第4普通科連隊長(帯広)を担任官として平成27年度レンジャー集合教育を開始した。第7師団では、資格検査を合格した30名の学生が参加し、7

月1日から9月13日までの間、第5旅団では、同じく資格検査を合格した28名の学生が参加し、7月27日から10月9日までの間、約2か月の間、レンジャー隊員としての必要な知識と技能を修得し、特に強靱な体力と精神力を養成することを目的とし、それぞれ駐屯地等において行われている。

例年、5月上旬から開始されている集合教育ではあるが、本年度は教育訓練の特性上、7月上旬からの開始となり、参加した学生は過酷な訓練に加え猛暑の中、己の限界に挑戦することとなる。参加学生は、レンジャー隊員としての誇りといふし銀に輝く栄光のレンジャーバッジを胸に装着する日が来ることを夢見ながら日々訓練に励んでいる。



助教の厳しい怒号が飛び交う中を走るレンジャー教育隊(第4普通科連隊)

# 航空自衛隊 千歳基地航空祭研修

## 平成27年度 オピニオンリーダー活動



千歳基地での研修

方面隊は、7月19日、方面隊オピニオンリーダー活動として、航空自衛隊千歳基地において航空祭の研修を行いました。

当日は、あいくの天候で、参加者が楽しみにされていたブルーインパルス等の飛行展示を含み予定されていた飛行展示のほとんどは、中止となりましたが、航空自衛隊の概要を説明し、航空自衛隊の装備品の紹介や訓練展示などを間近で、ご覧いただきました。

# 海上自衛隊 護衛艦研修



護衛艦「つばき」の研修

方面隊は、7月31日、方面隊オピニオンリーダー活動として、苫小牧港において護衛艦「ちくま」の研修を行いました。

本研修は、オピニオンリーダーの方々には海上自衛隊の概要を説明して頂くため、ノーザンスピリッツ2015の場を活用し、護衛艦「ちくま」による航海を体験して頂きました。

その中で、担当する海上自衛官から説明を受け、護衛艦の装備品の紹介、護衛艦の任務などを理解して頂きました。

一連の研修を終えた参加者からは「普段中々出来ない貴重な体験をさせて頂いた。機会を通じて海上自衛隊の食事を体験できたものを普及させたい」などの意見を頂きました。

# 北の駐屯地 その歩み



現在の函館駐屯地

駐屯地が所在する函館市は、北海道においては温暖な気候、恵まれた自然、道内屈指の観光スポットがある異国情緒あふれる国際都市として知られており、古来より北海道と本州の架け橋として発展してきました。

平成27年度末には待望の北海道新幹線（青森駅～新函館北斗駅）が開通し、更なる発展が期待されます。

駐屯地は、昭和25年の警察予備隊の創設時に千歳キャンプで編成された第2管区隊普通科第2連隊第3大隊が函館市駒場町柏野開拓地に移駐したのが始まりです。

第20回 函館駐屯地

昭和29年に釧路へ移駐しました。昭和28年姫路の第47特科大隊が移駐し、昭和29年陸上自衛隊が発足したのを期に第106特科大隊となり、東千歳駐屯地に移駐しました。

駐屯地は東日本大震災、南西沖地震などの災害派遣に延べ89回出動しており、即応態勢を維持・整備しています。また昨年は隊区自治体との防災協定締結をすべて完了し、更なる地域との関係強化しました。

# 隊史 北方方面隊 我らここにのみて 國安らかなり 第2回

## 終戦後の世界情勢その2 (極東の混乱)

この頃の中国は、「中華民国政府軍（以降、国府軍と記述）」と「中国共産党軍（以降、中共軍と記述）」による国共内戦が中国全土に拡大していた。

この頃の内戦は、昭和2年ごろから両軍の間で繰り返されてきた。その間、一時的に協力態勢をとった時期はあったものの、慢性的な対立関係にあった両軍の内戦は十数年以上続いていた。

上統していた。昭和12年の日華事変を契機に中共軍は形式上「第八路軍」として、国府軍に編入された。日中戦争終結までの間、再び協力態勢をとることとなるが、昭和21年中戦終結後、内戦は再開された。

この内戦に際し、米国は、極東に対する政策として和平調停を援助する方針をとっていたが昭和22年に時の米国大統領

が共産主義の拡大を阻止する方針を明らかにし「国府軍」を経済的、軍事的に援助する政策をとっていた。

「中共軍」はソ連の支援の下、農民の支持を徐々に拡大させ農村部を中心に支配地域を広げていた。

戦い、元々の戦力で勝っていた「国府軍」の優勢であり、昭和22年中頃になると大陸の大部分を掌握下に収めようとしていた。

ところが、国内のインフレーションによる農民を中心とした支持離れが始まり、頼みの米国も欧州における冷戦の開始、日本への占領政策の集中等の理由で、支援が先細りになっていった。そして、昭和22年5月頃から局地的に勝利を重ねてきた中共軍は、同年6月には、党員が開戦当時の倍以上、兵力が1.6倍に膨れ上がっていた。

一方の国府軍の兵力は2割弱が減少し、農村部を中心に勢力が後退、逆に共産党が勢力を盛り返していった。

昭和23年9月から昭和24年1月にかけての戦いで中共軍は勝利を重ね、この段階で国府軍と中共軍の兵力は逆転した。そして、最終的に中共軍による総攻撃で、中国の主要都市を占領。昭和24年10月「中華人民共和国」が成立した。弱体化した中華民国政府は、台湾への撤退を決定し、台北市を臨時首都とした。中華人民共和國による台湾への軍事侵攻が検討された。

昭和25年に勃発した朝鮮戦争などの要因に、北緯38度線の国境防衛の任に就いていた韓国軍は、たちまちに圧倒され、28日にはソウルが陥落し、国境守備の韓国軍4個師団は1週間足らずで総崩れとなった。

この頃の我が国は、国連軍の後方補給基地として、軍需物資の生産・輸送及び兵員の休養地として利用されていた。国内においては騒々しい暴行、暴力事件が多発している状況であり、朝鮮戦争への在日米軍の出動後の国内警備の不足が国内の不安を更に助長し、警察制度の改正、警察力増強の気運が高まっていた。

このような中、昭和25年7月8日「警察力の増強に関するマッカーサー元帥の書簡」が吉田首相に送達された。

その後、昭和26年に普通科第5連隊第3大隊と改称され、翌年に第4連隊第3大隊に再び改称が駐屯しています。

現在、函館駐屯地では主力の第28普通科連隊、駐屯地業務隊、第332会計隊、第120地区警務隊、北部情報保全隊、第314基地通信中隊、第3普通科直接支援小隊が駐屯しています。

創設以来の伝統を継承し、日々地域とともに前進する部隊として、道南地域の防衛のため日々鍛錬してまいります。

# 人生に潤いを与える言葉

『菜根譚』は、平素から危難の備える心得を解り易く具体的に述べています。

死時に心を動かさざらんとせば、  
須らく生時に事物を看得破るべし。

即ち「臨終（死際の臨んで）に動揺することなく従容（しやうよう）として往生を遂げたいと思うなら、平生（いきてるうちに）人生は実に儚い（はかない）という真実をよくよく心得ておくことが大事である」というのです。

臨終とは「臨命終時」（りんみょうしゅうじ）という言葉の略で「命の終わりに臨む時」のことで、人生の旅立ちの瞬間です。人はこの世に生命（いのち）を授けられた時（有限の時）を過ごした後に再びその生命をお返しするのです。この道理をよくよく弁（わきま）えていることが心の動揺をなくすることができるのではないですか。

心の健康相談 メンタルヘルス・カウンセラー 根本和雄

### 「ねむろまるごとバザール」で自衛隊をPR！ ～初参加のイベント広報大成功～

帯広地本



人気の帯広地本「自衛隊PRコーナー」

自衛隊帯広地方協力本部は、7月19日、根室市根室港で開催された「第3回ねむろまるごとバザール」において「自衛隊PRコーナー」を開設し、多くの来場者に対して一般広報を実施しました。このイベントは「第57回ねむろ港まつり」にあわせて開催され、根室市の海産物の販売、花火大会など多彩な行事が催されるもので、帯広地本として初めて参加しました。

「自衛隊PRコーナー」では、航空自衛隊第26警戒隊とともに、イベントチラシ、パンフレット及びポケットティッシュ等を配布し来場された地域の方々に対し自衛隊のPRを行いました。また、「はたらくクルマコーナー」では、軽装甲機動車等の展示・説明を行い、自衛隊の主な活動概要について幅広くPRを行いました。

自衛隊帯広地方協力本部は、これからも積極的に地域のイベントなどに参加し地域の皆様に自衛隊活動に対する理解の深化を図っていきます。

### 「JOIN★ALIVE！」 におけるイベント会場で広報活動

札幌地本



広報ブースにおける体験試乗

自衛隊札幌地方協力本部は、7月18日、19日、いわみざわ公園で広報活動を行いました。当日はJOIN★ALIVE 2015が開催されており、道内外から約3万人以上の観客が来場し、有名アーティストのライブや地元食材を使用したFODコーナーを楽しんでいました。

札幌地本は第12施設群の支援を得て、人気アトラクションのジェットコースター（龍王）前広場において、広報ブースを開設し岩見沢ご当地クイズを行って、パンフレットなど配布する広報活動を行いました。

ライブを見に来た道内外の若者や遊園地に来た家族連れ等約800人は、ご当地クイズの結果に感嘆の声を上げるとともに初めて見る自衛隊のパンフレットや装備品等に興味を寄せていました。

### 「2015 kamidai 夏祭り」 における市街地広報

函館地本



「行列の出来るミニ制服コーナー」

自衛隊函館地方協力本部は、7月19日、20日の2日間、北斗市にあるダイエー上磯店で実施された「kamidai 夏祭り」において、第28普通科連隊の支援を受け、函館地本広報ブースを設置し市街地広報を行いました。今回は、募集広報コーナーのほかメディアランナーによる広報ビデオの放映を行い、大画面での自衛官募集を行いました。

一方で来訪した募集対象者の学生等には、アンケートを記入して頂くなど募集獲得にもしっかりと対応し、また、募集相談員がこの広報に合わせ両日とも会場内で「自衛官募集案内ティッシュ」を配布し、様々な出店や催しが行われるなか「自衛隊ここにあり」を強く印象づける事ができました。この祭りにおける地本広報ブースは恒例になりつつありますが、自衛官募集や自衛隊の活動等については、今後まだまだ多くの方々に認識して頂く必要があり、来るべき採用試験を見据え、さらなる募集獲得に向け広報を進めていきます。

### 稚内分屯基地開庁祭で広報ブースを開設 ～未来の自衛官たち～

旭川地本



艦艇広報に際しての募集広報活動

自衛隊旭川地方協力本部は、7月12日、稚内分屯基地で行われた開庁61周年記念基地開庁祭、同開庁祭の一環として、稚内天北第1埠頭で行われた海上自衛隊掃海艇「ゆげしま」の一般公開に際し、広報ブースを設置しました。

稚内分屯基地では、基地警備及びバイクドリルの訓練展示、WAPC(装輪装甲車)の体験試乗が行われ盛り上がりを見せるなか、多くの来客で賑わっていました。また、稚内天北第1埠頭では掃海艇が一般公開され乗組員から掃海艇の役割や各種装備品の説明を受け、掃海艇を見学しました。艦を下船するところに地本が設置した広報ブースに多くの来場者が足を止め、募集パンフレットやグッズを受け取り、地本が作成した海上自衛隊のQ&A(広報展示パネル)を真剣な眼差しで見っていました。

強風の天候の中でありましたが、分屯基地、艦艇広報に多くの来場及び来艦者があり大きな広報効果を収めました。

## 各地方協力本部募集等広報情報

9月・10月

#### ■札幌地方協力本部管内

開催日	行事名	場所
9月8日(火)～9日(水)	掃海艇「ながしま」一般公開	白老港
9月13日(日)	ミ大通りお散歩まつり	札幌北4条西11丁目～14丁目(札幌地本庁舎前)

#### ■旭川地方協力本部管内

開催日	行事名	場所
9月20日(日)	第26回北海道丸太押し相撲大会	中川町
〃	第32回なかがわ秋味まつり	天塩川河川敷(パ)外広場
10月4日(日)	よくばりフェスタ	枝幸町道の駅「アライド」岡島

#### ■函館地方協力本部管内

開催日	行事名	場所
9月20日(日)	さわらふるさとまつり	砂原漁港特設会場
10月2日(金)	はこだて加チヤイト2014	函館市国際水産・海洋総合研究センター駐車場
10月下旬	やくも大漁秋味まつり	八雲漁港特設会場

#### ■帯広地方協力本部管内

開催日	行事名	場所
9月12日(土)～13日(日)	白糠町「バザール」	白糠町商店街
9月13日(日)	航空自衛隊根室分屯基地開庁祭	空白 根室分屯基地
〃	第42回標茶町産業祭り	標茶町特設会場
〃	第46回別海町産業祭り	別海町農村広場
9月19日(土)～20日(日)	らうす産業祭「第44回漁火まつり」	羅臼漁港
10月4日(日)	昆布森漁港みなと祭り	剣路町昆布森漁港
10月中旬	暮らし快適防災フェア	PAコーナー46

※行事は都合により延期または中止される場合があります

## 陸・海・空自衛隊の魅力を実感 ノーザンスピリット・15

北部方面隊は、7月29日から31日の3日間、陸上自衛隊東千歳駐屯地、航空自衛隊千歳基地及び苫小牧港において、ノーザンスピリット・15を行った。

本行事は、募集広報の一環として、海・空自衛隊の概要を総合的に紹介し、自衛隊に対する理解を促進して、志願者数の拡大と有為な人材を確保することを目的とし、今回は各地方協力本部から募集対象の学生等合計約230名が参加した。

初日は、東千歳駐屯地における陸上自衛隊の研修の見学、99式自走榴弾砲の空砲射撃の見学、90式戦車の体験試乗、野外衛生関連装備品の見学を行った。また、毎年恒例と



夕食は野外でバーベキュー

が天候不良のため中止となったが、東千歳駐屯地史料館の研修ATCE(機械化部隊戦闘シミュレーション)システム、陸上自衛隊の個人装備品等の見学を行った。個人装備品の見学では普段あまり目にする事のない自衛隊の装備品に目を輝かせ、とても興味津々であった。

2日目は、航空自衛隊千歳基地における航空自衛隊の研修と東千歳駐屯地における市街地戦闘訓練の見学、99式自走榴弾砲の空砲射撃の見学、90式戦車の体験試乗、野外衛生関連装備品の見学を行った。また、毎年恒例と

なっている野外喫食においては、各地方協力本部の職員などと会話をしながらメニュー満点のバーベキューに舌鼓を打っていた。

最終日は、苫小牧港において、護衛艦ちくまの体験航海を行い、海上自衛隊ならではの大きなスケールの護衛艦に参加者は大変満足していた。

また、研修間陸・海・空自衛官との懇談の場が設定さ

### 編集後記

8月は、お盆等先祖を敬う日本古来の風習が色濃く残る月です。お盆休み等を活用し、先祖のお墓参りをされた方も多くいることでしょうか。歴史を振り返ると8月は、日本人にとって印象的な出来事が数多くありました。とりわけ忘れられない出来事は15日の終戦の日でしょう。いわゆる「戦後」という時代は、ここからスタートしました。戦後の混乱期から見事に立ち上がり世界に誇る今の日本を作り上げた先人の努力は並々ならぬものがあつたものと推察します。◆混乱した状態においても整齊と秩序を守る日本人の国民性は現代の日本人においても、確かに受け継がれました。東日本大震災においても被災された方々が他人を思いやり、秩序ある行動をとっていた事は、あまりにも有名であり、世界中に賞賛されました。また、戦後のオリンピックなどに代表される大事業の成功や急速的な経済成長は、日本人の高い技術力と勤勉さを前提とした個々の努力の結果が組織力として発揮された成果でありました。この「秩序を守る国民性」高い技術力「勤勉」等は日本人の誇るべき点であり、受継ぐべき日本のDNAです。◆私たちが暮らす現代は当時とは比べ物にならない程便利になりました。これは、前述のとおり、当時の方々の努力が実った成果です。先人のご苦労にあらためて敬意を表し、今存在する私たちの世もこの国を次世代に繋いで行くことを決意する季節でもあります。